

# 全国初の「死刑」裁判員裁判に 参加「拒否!!」を呼びかけ

裁判員制度導入以来初めて死刑求刑の可能性のある裁判員裁判が、鳥取地裁で2月23日から始まることになった。米子市の会計事務所社長ら2人を殺害したとされる強盗殺人事件だ。“注目”の裁判を一週間後に控えた16日(火)、百万人署名運動山陰連絡会は中国地区各連絡会に呼びかけ「裁判員制度いらない! 2・16鳥取緊急行動」に決起した。

この日はあいにくの真冬日、寒風に小雪の舞い散る中を、まずは早朝から県庁前と市役所前でチラシまき。「裁判員制度いらない!」「みんなで出頭を拒否しよう!」と400枚のチラシを配布し、昼からの集会・デモ、夕方からの講演学習会への参加を呼びかけた。

正午からはJR鳥取駅前の風紋広場で制度廃止を訴える集会。地元山陰連絡会の仲間をはじめ、東京から「裁判員いらないインコ」ちゃん、積雪の峠を越えて駆け付けてくれた岡山・広島県連絡会の仲間たちなど20人余が参加し、「死刑に反対しても、多数決で決まってしまう。加担したい人はいない」「裁判員制度は現代の赤紙、戦争への道を

開くもの」「裁判員候補者にも選ばれても出頭を拒否しよう」等々、口々に訴えた。駅前での署名にも短時間に11名が応じてくれ、「法律の知識も無い者に人を裁

かせるなんておかしい」「どうしたら裁判員にならなくてすむか?」「私も反対だ。頑張る」などの声が寄せられた。

集会後はインコちゃんを先頭に「ストップ!裁判員制度」の横断幕やノボリを掲げて目抜き通りを鳥取地裁までデモ行進(写真)。元気にシュプレヒコールを繰り返した。歩道で行き交う市民や沿道の各商店へもチラシを配り、多くの激励や共感を得た。ある高校では生徒たちが校舎の窓から鈴生りになって手を振って賛同してくれ、とても感動した。

さらに、午後2時半から1時間余にわたり県庁記者クラブで記者会見。在鳥各社のマスコミが取材し、夕方からのテレビニュースや翌朝の新聞でかなり大きく報道された。



夕方5時半からは鳥根県弁護士会の佐和洋亮弁護士を招いての講演学習会。勤めを終えた労働者や市民も駆け付けた。佐和弁護士は「裁判の劇場化! 裁判員制度とその問題点」という演題で、①裁判手続きにおける問題点、②制度としての問題点、③死刑との関係等についてわかりやすく話してくれた。聴きながら「この制度は廃止する以外にない」「廃止まで闘い続けるぞ!」の決意をさらに強く固めた。

午後8時、早朝からの長い一日の行動が終了。「裁判員制度はいらない! 大運動」や近隣連絡会の仲間の応援を得て、緊急行動は大成功だった。皆さん、制度廃止までがんばろう!(山陰連絡会事務局 T)

## 裁判員制度廃止5.18全国集会の実行委ひらく



2月19日、「裁判員制度はいらない! 大運動」の全国実行委員会と記者会見が弁護士会館で開かれ、5.18集会(日比谷公会堂)に向けた取り組みが話し合われました。記者会見(右の写真)では、宮城県、神奈川県、千葉県、東京都などから裁判員候補者に登録された方々が参加してそれぞれの裁判員拒否の立場を表明しました。組合員4人が候補者に登録された国鉄千葉動力車労働組合は、「組合方針として各人が通知を返送した。裁判員制度は廃止すべきであるという立場で、団結して拒否行動をとる」と表明しました。

続いて行われた実行委員会には40名を超える参加者がありました(左の



写真)。各地の取り組みの教訓を出し合いながら、5.18全国集会の大結集を実現しようと確認しました。高山俊吉弁護士は、「7月までに1800件もの裁判員裁判を実施しなければ、そのローテーションが回らない危機に最高裁は直面している。出頭率も下がっている。鳥取での闘いに続こう。そして、みんなで5.18全国集会の内容をつかって、みんなで人を組織し合って、2000人の結集を実現しよう」と訴えました。